



【イエスキリストの復活の真実&祝福】

説教者：鄭南哲牧師

本日聖書箇所：マルコの福音書16章1-16節/暗唱聖句：ローマ人への手紙10章9-10節

(新改訳2017版)

2025年今年もイエスキリストの復活を祝うイースターおめでとうございます！

本日はイースター感謝礼拝として捧げる主日の朝です。イースターおめでとうございます！

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安があなたがたにあるように。』こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネ20章19、20節)

イースターの主日の朝、復活の当日の弟子たちの姿を思い巡らします。人々を恐れ、扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じこもっていた弟子たち！彼らの心もまた恐れと不安の中で閉ざされていたことでしょう。しかし死に打ち勝って確かによみがえられた主イエスキリストは彼らの真ん中にお出でくださいました！そして「平安があなたがたにあるように！」と言ってくださいました！本日イースター主日の朝、愛する教会の兄弟姉妹皆さんのおひとりひとりのもとに、復活の主がお出でくださることを信じます！そして弟子たちは主を見て(大いに)喜んだように、人生に対しても様々な不安と恐れにかかえている我らのうちにも、この神の喜びと平安に包まれる今日の礼拝となりますようにお祈り申し上げます！

歴史上イエスキリストの復活以来、約2000年に渡り本日に至るまで、主の始めの日となる毎日曜日の朝に礼拝が全世界でさげられています。よみがえられ、今もなおともに生きておられ、臨在される主イエスキリストからの大いなる御恵みと平安が益々豊かに注がれますように心からお祈り申し上げます！

今まで世界の多くの法律家たちがイエス様の復活を証するたくさんの本を記録したことはとっても意味深いことの一つです。あらゆる証拠と状況を論理的に分析する法律家たちがイエス様の復活を黙想しながら否定できない明白な証拠と確信を持ってイエス様の復活を証言しました。世界のギネスブックに弁護牛数として一番多く成功した者として記録に載せられているライオネル・ラックフー(Lionel Luckhoo)という弁護士は連続して245件の事件を勝訴した記録を持った弁護士でした。彼は最初クリスチャンたちがイエス・キリストの復活を信じることはありえないとその否定的な証拠を見せようとして、ある時からイエスキリストのよみがえりの出来事を法律と証拠に基づいて検討し続けて見た結果、次のような告白をしました。

“イエス様の復活の件に関して、その証拠に圧倒されて疑える何の余地もなく、その復活の事実を受け入れざるを得ない”と告白しながら、彼がイエス様とその復活を信じるクリスチャンになった話は世界的に有名な実話であります。

本日イースター主日の朝、イエス・キリストの復活を証言している福音書の中で、マルコの福音書16章の御言葉を通して、もう一度イエス・キリストの復活を確かめ、確信と信仰を持ってこの復活のイエス・キリストを証するみなさんとなりますように切に祈ります。

<逆説的なイエスキリストの聖書の復活の証拠と記録>

① イエス様の復活の当時、イエス様の弟子たちの姿はとってもアイラニカル的(皮肉的)です。なぜならば、イエス様の復活を体験した弟子たちさえも、みんな信じ難かったからです。

今日の本文によると、十字架につけられ死なれ、封じられていたイエス様のお墓に行った女たちはマグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメでした。

彼女らは弟子たちさえも恐れてみんな逃げ出したイエス様の十字架の最後のところまでついて行って、イエス様がお墓に葬られることも見守ったはずですが、しかし、イエス様に対する信仰をしっかりと持っていた女たちでしたが、しかし、イエスのよみがえりを知らせる御使いと出会った時に、彼女らはまるで幽霊を見たかのように、恐れて震え上がってお墓から逃げ去ってしまいました！そして、しばらくの間、だれにも何も言えなかったことが分かります(8節)。

ほかの福音書によると、弟子たちでさえも、イエス様の復活を期待も、理解もしてなかったことが分かります。以前よみがえりをイエス様から直接お言葉を聞いていた弟子たちだったのにもかかわらず、イエス様のお言葉を信じるより、自分たちの今までの生きて来た経験と人の常識でとらわれ、思い込んでいました。十字架の上で間違いなく完全に死なれたイエス様なのに、よみがえられることなんて、当然ありえないことだったでしょう。しかし、実際イエス様が預言のお言葉通り、三日目によみがえられた証拠として、ご自身を弟子たちに現して下さった時にもしばらく、疑ったり、信じ難い反応を示したことが聖書を通して分かります。

ヨハネの福音書20章3-10節を読んで見ますと、イエス様の弟子だったペテロともう一人の弟子(ヨハネ)が直接イエス様のお墓に行ってイエス様を巻いていた亜麻布が置いてあって、イエス様の頭に巻かれていた布切れは、亜麻布と一緒になく、離れた所に折りたたまれていたのを見たのにもかかわらず、9節に「彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。」と記されています。

今日の聖書の本文11節を見て下さい。「彼らは、イエスが生きていて、彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかつ

た。」(新改訳3版では、「ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようと
はしなかった。」)よみがえられたイエス様と出会ったマグダラマリアがすぐに帰って来て他の弟子たちに行き、復活の
お知らせを伝えましたが、弟子たちはイエス様の復活の出来事を信じようとしなかったと書かれています。

イエス様の当時にも、イエス様の復活の出来事の直後しばらくは、イエス様を信じ、ついていた弟子たちさえも、イエス様の
復活が信じられませんでした。実はそのような反応は当然かも知れません。今まで人が見ても、経験したことも、聞いた
こともまったくなかったことを、目撃し体験したわけです。

しかし、イエスの当時も、今日も人が信じようが、信じようとしないう関係なく、聖書に明らかに書かれ、しばらくの後、
多くの人々がよみがえられたイエス様と出会ったことにより、イエス様の復活は歴史上、実際死から三日目に起こった
出来事であり、復活されたイエス様ご自身を通して、復活の記録が歴史的な事実である事を表してくれます。

もしもかりに、イエス様の復活に関する聖書の記録が偽りで、他の人たちを信じさせるために、弟子たちが勝手に
うそで記録したならば、決して聖書はこんなに正直に記録されなかったはずではないでしょうか。うそで、イエス様
がただ普通の人で過ぎなくて、ただ十字架で死んでおしまいだった人を、偉い存在にさせたくて、ほかの人々を信じ
させるために、うそをついた人々が自分たちも疑ったり、信じようとしなかった(ヨハネ20章ではイエス様の弟子の
一人、トマスは直接よみがえられたイエス様とあっても信られず、刺されたところや、釘付けられたイエス様の傷のところ
など触って見て、ようやく信じるのが出来た記録など)ということばかり書いて、他の人を信じさせようとしたとは
到底考えられません。

聖書ではイエス様の復活について率直に、起こされた事実通りにくわしく記され、しかもとっても逆説的に証して下さ
っていることが分かります。

最後まで疑っていたイエスの弟子の一人だったトマスがイエス様の手と脇腹(わきばら)に手を入れて見てからようやく
「わが主、我が神(ヨハネ20章28節)」とイエス様が確かによみがえられたと信じた時に、イエス様は彼にこう語って下さ
いました。ヨハネの福音書20章29節に「イエスは彼に言われた。あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで
信じる人たちは幸いです。」

(信じることと、知っていることはどう違うのでしょうか。自分で全部頭で、理性や経験で理解して分かるのは、ただ知っ
ていることで、反面、信じることは、自身の理解力を越えることで、すべてを調べられない、見れない、すべて経験でき
ないけど、その真実、その出来事をそのまま受け入れることが信じることだと思います！その時、まさに信仰が必要の
ではありませんか。人の目には見えなくても実際存在し、起こっている出来事はいくらでもありますね。人間の目という
のは、どれほど確かなものなのか。人間の目が見るためにはどういう仕組みになっているのかというのは、カメラのよ
うになっています。人間の目が見える世界はどこからどこまでなのでしょう。可視光線によって、見るができます。
つまり、光の助けがなければ、目があっても見え ない。光の助けがなければいくら視力が2.0であっても見えない。
私たちの目というのは、光によって実は助けてくれなければ見えない。しかも、紫外線(しがいせん)などを省(はぶ)いて
見ている。だから、特殊な機械で見ると、肉眼では見えない世界が見える。見える世界だけを信じるというのは、実は無
知な話しではないのでしょうか。光というのにも、色々な光が入っている。放射線も赤(せき)外線も入っていますが、見え
ない。では、見えないから信じないのか。私たちは信じています。だから、焼けないように日焼け止めクリームなどを塗る
でしょう。また、電波も自由に飛んでいる。でも見えません。しかし、見えなくても信じている。なぜならラジオがついたり、
携帯電話が鳴ったりしているから。空気も見えない。でも、あることを疑わず信じています。空気があるから生きている
からです。実は私たちは見えないものに支えられて生きているのです。見える世界だけを信じるというのは、無知な話
しではないのでしょうか。

ヨハネの福音書を含め、福音書全体の結論として、ヨハネの福音書20章31節には、こう書かれています。ともに読んで
見ましょうか。「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、
また信じて、イエスの名よっていのちを得るためである。」と。

今日私とみなさんはイエス様の復活を感謝し喜びをもって礼拝していますが、みなさんはいかがでしょう。今、生きて
おられる神の御前で、心からイエス様の復活の出来事を信じていますか。

イエス様の復活を身近で迎えた彼らのように我々の心と信仰にもある面においても、イエス様の復活に対する驚きとシ
ョックと恐れと疑いもあるかも知れませんが、どうかこの時間、今も生きておられともにおられる主がみなさんに掬でく
ださって受け入れ信じるができる信仰を与えてくださいますように心からお祈りいたします。

② 二番目に、イエス様の復活に対して注目すべきことは、福音書ですべてイエス・キリストの復活の始めの証人たち
が女たちであると記録されたところです。

今日の聖書本文マルコの福音書16章1節に「さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロ
メは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。」と書かれています。

週の始まりの日の朝、つまり今日で言うと、日曜日(よみがえられた主の日)朝早い時間となりますね。主日の朝早く
女らはイエス様が葬られていたお墓に行きました。イエス様の十字架の一番近くにいた女たちが安息の日(土曜日)からだ

と思っていますが、ユダヤ人たちの時間観念によると、正確には、金曜日日が沈むときから始まりました)の翌日、次の朝早く、イエス様のお墓に向かった理由は何でしょうか。イエス様の遺体に油を塗るためでした。イエスキリストが十字架で死なれたのは金曜日の午後3時でした。もうまもなく、日が沈むと安息日が始まり、安息日の土曜日まで遺体を触れなくなり、イエス様をお墓に安置されるのに、遺体に普通に油を塗ったりするととのえる時間がなかったので、急いで基本的な亜麻布でまく程度で安置されたと推測することが出来ます。

当時、十字架の上で処刑された罪人の遺体はお墓に安置されることは決してありませんでした！当時の十字架の死刑で死んだすべての遺体はみな鳥や獣のえさとして投げ捨てられたからです。しかし、イエス様は死なれてからも全て旧約の預言の通りに行われていたことが分かります。イエス様はアリマタヤのヨセフというイエス様を信じていたある金持ちのお墓に葬られました。それは、イエス様がお生まれる700年前にメシア、救い主に関する預言の通り成就する為でした。「彼の墓は悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。」(イザヤ書53章9節)

神様は、この預言が成就されるように、アリマタヤのヨセフを用いて今までだれも使ったことのない洞窟のような墓に三日目まで、イエス様を安置させて下さったのです。ですから、血まみれになったままの姿で、お墓の中に安置されていたと思うだろうと思い込んでいた女らがだれよりも早く、イエス様のお墓に急いで行ったわけでした。結局、彼女らは復活の初の証人となり、空っぽのお墓と御使いたちのお告げを通して、イエス様の復活を知り、後には復活されたイエス様に出会える感激と栄光の時を迎える主人公たちとなりました。

愛する信仰の家族のみなさん。一度ゆっくり冷静に考えて見て下さい。

当時イエス様の時代の女たちの立場と身分は無視され差別される存在でした。代表的な一つの例が、イスラエルでイエス様の時代の女たちは人口調査にも含まれない時代でした。女たちの証言や証拠は、法的に認められてない時代でした。もし、神様の御言葉である聖書が、イエス様の復活に対して多くの人々を信じさせるためだったならば、弟子たちが作り上げた偽りの物語であったならば、決して女たちからの証人と証言で始まらなかったと思います。もしあったとしても、わざと抜けてなるべくもっと有力な人や影響力を持つ人、知名度が高い人を選んで書かないとならなかったのではないのでしょうか。

聖書は、実際起こった出来事のままでなければ、決して女たちをイエス様の復活の初証人として登場させなかったはず です。ですから、言わば、神の御言葉聖書はすべてが歴史的な事実と真実な記録であり、今日このイエス様の復活の出来事も、だれも否定、否認出来ない、真に起こった事実そのまま記録された神の御言葉であることが分かります。

③ もう一つイエス様の復活に対する確かな証拠は、イエス様が安置されていたお墓が空いたということです。

今日の本文3-4節をもう一度ご覧ください。「彼女たちは「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。4ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。」

イエスのお墓にいそいで行きながら、彼女らに一つ大きな心配がありました。封じられていたお墓の入り口の大きな石をどう転がせて中に入ることができるかという問題でした。自分たちではどうしようも出来ないのに、ただイエスキリストの愛する心を持って切なる思いで、心配しながらイエス様のお墓に向かって行ったことが分かります。ところが、イエスのお墓に着いた時、女たちはまったく予想もしなかった光景が現れていました。イエス様のお墓の入り口を封じていたその大きな石！その石は1トン以上であったので、男子10人で押してもすぐ簡単には動かされないものが、すでに横に転がされ、お墓の入り口が開けられていたのです！

関連のマタイの福音書28章2-4節を見ると、「すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきに転がし、その上にすわったからである。3その顔は、稲妻(いなずま)で、衣は雪のように白かった。4その恐ろしさに番兵たちは(御使いを見て)震え上がり、死人のようになった。」

愛する信仰の家族のみなさん！神の御使いたちがお墓の入り口の石をすでどころがし、イエス様のお墓を開けておいたのはなぜだったのでしょうか。墓の中に封じられていたイエス様が出られなかったから助けに、お墓から出られるようにするため開けたのではでしょうか。決してそうではありません。

後で来る女たちと弟子たちに、そして、多くの人々、だれにでもイエス様がお言葉通りによみがえられ、そのお墓の中が空いている姿そのままが見られるようにするためでありました！

イエス様のお墓についても一つ注目したいところは、イエス様のお墓をローマの兵士たちが厳重に見張っていたと言う事実でしょう。本来ならば、お墓をローマの兵士たちが見張る必要何かいっさいありません。そうしなくても男子10人が動かそうとしてもできないほど大きな石でお墓は封じられていたわけですから。

マタイの福音書27章62-66節によると、これはイエス様を十字架につけさせ、殺すことに扇動していた祭司長たちやパリサイ人たちのようなユダヤの宗教指導者たちがローマ総督のピラトに懇請(こんせい)によって、兵士たちをイエス様のお墓を見張るように配置したわけであります。ところが、どうして、宗教指導者たちはそのように総督ピラトに番兵

たちを求めたのでしょうか。ユダヤの宗教指導者たちはすでにイエス様が語られたように三日目によみがえられる事をずっと覚え、どうしてもそれが気になったからでした！

愛する信仰の家族のみなさん！本当にアイロニー(皮肉的)じゃないでしょうか。いざ、イエス様の弟子たちは最初イエス様がよみがえられた事はとんでもないことであり得ないことかのように忘れ、よみがえったイエス様をご自身を見せても疑ったり、すぐ信じがたく行動してたのに、実際、イエスキリストを十字架につけるのに、偽善的で悪質(あくしつ)なユダヤの指導者たちの表では、イエス様の弟子たちとかだれかがイエス様の遺体を盗もうとするかも知れないと理由をイエス様のお墓を見張らなければならないと主張してしましたが、彼らの本音は、実際にイエス様の御業をずっと目撃し、よく知っていたので、イエス様が預言された通りよみがえられる出来事に対して忘れずずっと覚え、恐れを持っていたからでした。つまり、その意味は、実際にイエスキリストのお言葉通り、イエス様の復活を恐れ、彼らは信じていたという事裏付けられるのではありませんか。

マタイの福音書(28章12-15参照)によると、実際にイエス様の復活の知らせを聞いたユダヤ人の指導者たちは、多額の金で兵士たちを買ってイエスの弟子たちがイエスの遺体を盗んでいったと言いつらすようにしたことが分かります。

愛するみなさん！ここで、もしも、イエス様が復活されず、イエス様の弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、イエス様の復活を信じる信仰よりも、さらに大きい信仰が必要になるでしょう。解決されるべき課題がもっと多いからです。例え、①イエス様の石の墓を見張っていた兵士たちが眠っている間、イエス様の遺体を盗もうとしたら、あんなに大きい石がころがされるのに、一人もそれに気づかされなかったのはそれ自体が常識的に納得いかないことであり、到底理解しがたいです。

②かりに弟子たちが、本当にイエス様の遺体を盗んでおきながら、嘘でイエスが復活されたとするなら、イエス様の弟子たちは遺体を盗んだ罪があります。そしてその罪を問いかけてみんな捕まえて死刑を下すことのできる権力者たちでは周りに多くいたのではありませんか。それにもかかわらず、なぜ弟子たちを拘束(こうそく)せずに、実に出来なかったのでしょうか。イエス様の復活があまりにも明らかに事実だったし、弟子たちだけでなく、すでに多くの人々の中でイエス様の復活が広がっていたから、どうしようもできなかったのでしょうか。

③イエス様の十字架の前での弟子たちの心理状態を見て下さい。イエス様の遺体を盗んだのであれば、十字架の上でのイエスを遠くから眺めながら、自分たちも同じくされるのではないかと恐れて逃げて行った臆病な弟子たちがいきなり変わって、みんな集まってイエス様の遺体を盗んで、それともイエス様が復活されたかのようにすべての偽りを企画と企みをしたということがあり得るのでしょうか。イエス様の復活を聞いてむしろ恐れていた弟子たちではありませんか。後に、イエス様の弟子たちは全員イスラエルだけではなく、他の国々まで行って、復活された神の御子イエスキリストの御救いを伝えながら、全員が殉教者の列に入ることになります。イエス様の復活を自分の目で見て確かめ、その真実と事実を確信しなくて、どうして自分の命まで捨てることが出来るのでしょうか。もし、弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、それがうそだったと告げ口する人が弟子たちの中で後ででも一人もいないほどみんな良心の呵責もない悪い人たちだったのでしょうか。みんな平凡な人たちだったのではありませんか。

④弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、その墓の中の様子が理解できません。
「イエスの頭に包んでいた布は、亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。(folded up:おり畳んでいた)」
(ヨハネの福音書20:7)イエス様の遺体を盗んでいったら、その短い緊迫な時間の間、亜麻布に包んだまま遺体を運ばないといけないうのでないでしょうか。まだ血まみれになっているイエスの遺体を巻いていた亜麻布をはずして、それだけでなく、イエスの頭に巻かれていた布切れは別のところにたたんでおいて置くおろかな者がいるのでしょうか。これらのすべての証拠を通してでも、少しでも冷静に考えて見ると、弟子たちが盗んだと言う主張こそ、イエス様の復活を恐れていた者たちが作り上げた偽りの物語りであって、むしろイエス様の復活を信じさせないためにさらに大きい信仰を持たなければならないほどイエス様の復活は明確な事実である事が分かります。

これ以外にもイエス様の復活を否定しようとした様々な主張がありました。ある人はイエス様が本当は死なないで、激痛のあまりしばらく気絶(きぜつ)されたのではないかと主張します。実際に死んだのではないということです。これはローマの兵士たちを無視することです。十字架の処刑を知らない人たちの話にすぎません。
ある人々は女たちやイエス様の弟子たちが間違っただけの墓に行った可能性があるのではないかと主張します。
実際にイエス様が置かれていた墓ではなく、空っぽの墓だったとも主張します。これももっと理解しがたいです。また、ある人々はイエスを愛して信じたゆえにまぼろしを見ただけに過ぎないとも言われます。しかし、愛する信仰の家族のみなさん。一人でもなく、500人以上が同時に見るまぼろしはありません(第一コリント15章6節)し、今日の御言葉に書かれているようにそれぞれの場所で弟子たちと出会わせてくださったのです。ある人はローマの兵士たちが盗んだと主張します。ローマの兵士たちがなぜ命をかけてイエスの遺体を盗んで問題をさらに多くしますか。すぐばれてしまうことにすることはできません。最近の説ではイエスは双子だったという主張も

ありました。イエス様が死んだのは事実だが、もう一人の双子の弟が兄の代わりに、復活されたかのようにふりをしたと
のことです。

記録によると、イエス様の復活後の1年間の間、エルサレムだけでイエスキリストを信じうけたユダヤ人は最低125,000
人を超えたそうです。なぜならば、一番の復活の証拠である空いたお墓は誰でも来て見られるところだったからではあ
りませんか。イエスキリストは弟子たちに、女たちに、そして同時に500人以上の人たちに復活されたイエスキリストご自
分の姿を現してくださいました。そしてイエス様が天に昇られる時も500人以上の人々がこの光景を目撃しました。
(ルカ24:33,;50-51,第一コリント15:6,使徒1:9)。これらの出来事は事実と違いありません。そうでなければ、これが
聖書に入っているわけがないからです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!イエスの弟子たちはほぼ全員がイエスキリストの十字架の
罪赦しと救いの為の死であり、信じるすべてに与えられる永遠の命の証拠として復活されたことを伝えながら、みんな
が殉教されました。それだけではなく、今までのキリスト教の歴史を見ると、彼らの後から今にいたるまで、およそ約 6
千 6百万人以上のクリスチャンたちがキリストのために殉教されたと記録されています。かりにイエスキリストの復活が
事実ではないなら、彼らはすべてを失い、何も得られたことなくこの世で一番かわいそうな人々になるのではありませ
んか。イエス様の復活が本当に事実ではなければこれらのこともできなかったと信じます。(コリント人への手紙第15
章17-20節を読んで見ましょう)

イエスの復活を誰かが信じるか、信じないかは関係なく、歴史的にたしかな事実でした。そうだったので弟子たちはなん
の疑いも、恐れもなく、イエスのためなら死までも喜んで受け入れることができたのです。

ただ単純に神の御言葉で書かれている証言通り、信じれば、解決されますし、大丈夫です！

我々はイエス様の置かれていた空いたお墓を見ながら、イエス様の復活をすなおに信じるのが出来ますように心から
お祈りします。御言葉以外に付け加えることもなく、抜ける一切必要もない、真理の御言葉のままで信じ、よみがえられ、
今もなお信じる者とともにおられる復活のイエスキリストを心から信じる皆さんとなりますように切にお祈り申し上げま
す。なぜなら、そうしなければ、神の御救いを、イエスキリストによる永遠のいのちを我らが得ることは一切できないと神
は聖書にだれも後言い訳が出来ないようにはっきりと約束して下さっているからです。

「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。(ローマ10:9-10)」

今日の本文の6－7節は白い衣を来ていた御使いが現われ言われる場面をしっかりと見て見ましょう。

「青年(御使い)は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているの
でしょう。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。7
さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたと
おり、そこでお会いできます』と。」

十字架につけられ死なれた神の子イエス・キリストは確かに復活されました。「ここにはおられません。前から言ってお
られたように、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。(マタイ28章6節)」

だれでもこの復活されたイエス様を信じ受け入れる者には、罪の呪いにおさめられることなく、死をうちやぶったイエス
キリストの永遠の命が与えられると神様は約束されました！

蘇られたイエスキリストは、7つの悪霊にとらわれた苦しんでいた悪霊を追い出し、癒して下さったマクダラマリアに法
において下さり初めて出会わせて下さいました！！ですから、以前過去どんな人生を歩んで来た方であっても、蘇られ
たイエスキリストと出会えることが出来ます。そして、その蘇られたイエスキリストによって、あなたの人生も救われま
す！

すでに信じている信仰の家族のみなさん！主の復活を信じるなら、イエス様のお墓にとどまらないで、イエス様の復活と
それを信じる者に与えて下さる神の御救いを大胆に分かち合い、証しして行きませんか。イギリスの有名なチャールズス
ポルジョン牧師はいつも信徒たちにこうお願いしたそうです。「イエス様の空いたお墓をよく確認してみてください。よみ
がえられた神の御子イエスを信じる私とみなさんのお墓もいつか必ず、そのようにされると信じましょう。」復活の初穂
となられたイエス様の空いたお墓のように、我々の墓もそうなると信じます。死んでもふたたび生き返らせられ永遠の御
国で永遠のいのちをもって生きれると信じます。ついに復活され今もなお信じる我らとともにおられるインマヌエルの
主、イエス・キリストの復活を信じる信仰によって大胆に進み行きましょう。イエスキリストの復活を信じる皆さんのお一
人お一人の上に神の救いの御業と大いなる神の憐れみと祝福が益々豊かに注がれるクリスチャンプレイズチャーチの全
信仰の家族となりますように切にお祈り申しあげます。アーメン！